

保育活動に対する適応の推移

— 昭和35年と昭和56年の教職(保育)活動の比較 —

篠原 優

(1982年10月16日受理)

The Change of Adjustment for the Nursing Activity

Yutaka SHINOHARA

一 問 題

昭和37年2月1日から、幼稚園設置基準が完全施行になった。設置基準の施行は、かねて多くの幼稚園関係者にとって、つよい問題意識の対象になっていた。その理由は、教師の資格・園舎・園地・諸設備などに、画期的な変化をせまられるからである。

当時をふりかえると、全国で70%、本県では93%が私立幼稚園であった。そこで、設置者はもちろんながら、以下のような理由のため、幼稚園教育にたずさわる多くの教師にとって、希望と不安の交錯する切実な関心がよせられていた。

- 1 約70%に達する助教諭は、経過措置があっても、資格を取得しなければ、退職を余儀なくされることになる。
- 2 都市に集中している多くの幼稚園では、園地の拡張がむずかしい。したがって、学級数の縮小・幼稚園の閉鎖・他の施設への転用などのやむなきにいたる。
- 3 財政的な事情のため、園舎や諸設備の改善と充実に、多くの困難があるなど。

昭和35年に共同研究として、「幼稚園設置基準の完全施行にともなう教師の適応の推移について(第1報)」を発表した。これは完全施行に先だって、幼稚園教師の保育活動に対する適応状態を、次のような諸角度からたしかめたものである。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 幼稚園教師の個人的条件 | 5 幼稚園教師の人間関係 |
| 2 幼稚園教師を志望した動機 | 6 幼稚園教師の保育状態 |
| 3 幼稚園教師の生活状態 | 7 幼稚園設置基準に対する態度など |
| 4 幼稚園教師の社会的地位 | |

ところで、それから20年を経過するうちに、幼児の教育や保育をめぐる条件は、大きく変化した。そのことを示す多くの事実があげられる。

- 1 人間形成における幼児期の重要性がとかれ、保育所をあわせると、卒園率は90%に近くなった。2年保育と1年保育の人数比も、7:3から3:7に逆転した。
- 2 短期大学や4年制大学による幼稚園教諭や保母の養成がととのい、助教諭や無資格の保母は、

原則として採用されなくなった。

- 3 公立幼稚園の増設がめだち、私立幼稚園より多くなった。私立の幼稚園も原則として法人立となり、主として人件費に充当するための公的な補助金が、すべての幼稚園に支給されるようになった。
- 4 常勤やパートで働く母が増加したこともあって、公私立の保育所が激増し、幼稚園数をかなり上まわるようになった。幼保の一元化、保母の身分法の制定も問題になっている。
- 5 幼児保育の要求が多様化し、教育や福祉をめぐる行政の立ちおくれがとかれることになった。いわゆるベビーホテル (baby hotel) の問題も、そのひとつである。
- 6 幼児の家庭教育をめぐる問題について、父母の研修が全国的におこなわれるようになった。家庭教育相談事業、乳幼児をもつ親の学級などがそれである。
- 7 出生減にともなって、父母の過保護や過干渉がとりあげられ、育児に関する書籍が本屋の店頭にあふれる状態がみられている。障害幼児の保育をめぐる問題もふえている。
- 8 わが国の経済成長によって、幼稚園や保育所の勤務条件は、大巾に向上した。しかし「物はゆたかになったが、心はまずしくなった」といわれるように、職場の人間関係が変化したなど。

昭和 56 年におこなった研究は、昭和 35 年の研究による結果とくらべるため、おなじ質問項目でおこなうことにした。ただし、幼稚園の教諭だけでなく、保育所の保母も対象とし、さらに公立と私立の両者について実施した。

なお、幼保の一元化と障害幼児の受けいれについての設問は、昭和 35 年ではとりあげていなかったが、昭和 56 年の研究ではとりあげることにした。

二 方 法

昭和 56 年におこなった研究方法のあらまは、次のとおりである。

1 調査内容

別紙の様式による幼稚園教職活動調査票および保育所保育活動調査票にもられた内容のとおりである。昭和 35 年の研究での内容とおなじにしたが、次の諸点だけでちがっている。

- イ 幼稚園設置基準をめぐる設問は省略した。
- ロ 新しく幼保の一元化と障害幼児の受けいれの設問をとりあげた。
- ハ 保育所も対象にしたので、2 種類の調査票を作成した。

2 調査方法

すべて無記名とした。昭和 35 年は研究大会に参加した幼稚園教師に配付したが、昭和 56 年は個人別に郵送しておこなった。

3 調査期日

昭和 56 年、昭和 35 年とも、9 月に実施した。

4 調査対象

昭和35年は私立幼稚園教師を対象として実施した。そのときの県内での依頼者は270名、回答者は179名、回収率は64%であった。さらに県外教師の依頼は120名、回答者は52名、回収率は42%であった。

Table 1 調査対象

対象施設	依頼者数	回答者数	回収率(%)	備考
幼稚園	203	93	45.8	公幼 58
				私幼 34
保育所	208	90	43.3	公保 22
				私保 68

昭和56年は、Table 1の対象についておこなった。幼稚園教諭は県教職員録、保育所保母は県児童家庭課の保育所現況調査をもちいて、公立と私立にわけながら、それぞれ無作為抽出した。返信用の封筒や切手をそえていたが、回収率はいずれも50%

をこえなかった。なお、対象として、園長や所長は除外した。

三 結果と考察

1 調査対象の年齢構成

調査対象の年齢構成は、Table 2のとおりである。これによれば、幼稚園・保育所とも、20~23歳のものが、30%をこえている。31歳をこえるものは、幼稚園で16%、保育所は31.1%である。保育所に高年齢者の多いことがわかる。逆に23~30歳のものは、幼稚園では58%であるが、保育所では35.5%である。

Table 2 調査対象の年齢構成

施設 人数 年齢	幼稚園		保育所		合計	
	n	%	n	%	n	%
19歳以下	0	0.0	1	1.1	1	0.5
20~22	29	31.5	29	32.2	58	31.9
23~25	31	33.7	21	23.3	52	28.6
26~30	15	16.3	11	12.2	26	14.3
31~35	9	9.8	5	5.6	14	7.7
36~40	1	1.1	7	7.8	8	4.4
41~45	1	1.1	3	3.3	4	2.2
46~50	2	2.2	10	11.1	12	6.6
51歳以上	3	3.3	2	2.2	5	2.7
不明	1	1.1	1	1.1	2	1.1

いずれにしても、幼児保育者は若いものが多く、少数の高年齢者との年齢差がめだち、小・中学校とは対照的である。この要因として、いくつかの条件があげられるとともに、このことが、幼児保育の現実に反映することはいうまでもない。

2 就職の動機

「あなたはどんな動機で幼稚園（保育所）の先生になりましたか」とたずねると、「子どもが好き」「性格にあう」「仕事が好き」が多い。情緒的な思考がめだっている。

幼稚園と保育所をくらべると「子どもが好き」「仕事が好き」では類似する。しかし「性格にあ

Table 3 就職の動機

			施設		幼		保		計		S.35	備考
			人数		n	%	n	%	n	%	%	
選択肢			n	%	n	%	n	%	n	%	%	
設 問 2	イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ リ ヌ ル ヲ	仕事が好き	24	15	28	16	52	16	10			**
		子どもがすき	66	41	67	39	133	40	24			
		性格にあり	44	28	26	15	70	21	14			
		家計補助	1	1	11	6	12	4	5			
		社会奉仕	4	3	2	1	6	2	23		**	
		上品な仕事	0	0	0	0	0	0	1			
		周囲のすすめ	5	3	16	9	21	6	10			
		楽な仕事	0	0	0	0	0	0	0			
		なんとなく	8	5	6	4	14	4	3			
		進路の失敗	1	1	1	1	2	1	4			
		退職してから	0	0	3	2	3	1	3			
その他	5	3	11	6	16	5	3					

う」では、幼稚園は28%、保育所は15%である。

昭和35年と昭和56年をくらべると、「子どもが好き」は24%から40%にふえ、「社会に奉仕する」は23%から2%にへり、ともに危険率1%の有意差であった。「物はゆたかになった、心はずしくなった」といわれる社会的現実のあらわれといってもよい。

3 選職の満足感

「あなたは幼稚園（保育所）の先生という職業をえらんだことについて、現在どう思っていますか」とたずねると、Table 4 のようになった。これによれば、選職に満足感をもつものは、幼稚園と保育所のいずれでも、「たいへん満足」と「かなり満足」をあわせて、70%をこえている。このことは、昭35と昭56で共通する。幼児を対象とする仕事の楽しさがわかる。女性にとって適職であ

Table 4 退職の満足感

			施設		幼		保		計		S.35	備考
			人数		n	%	n	%	n	%	%	
選択肢			n	%	n	%	n	%	n	%	%	
設 問 3	イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ リ	たいへん満足	24	26	22	24	46	25	43		**	
		かなり満足	47	51	43	48	90	50	30		**	
		とくに考えない	6	7	10	11	16	9	2			
		かなり不満	2	2	1	1	3	7	6			
		後悔する	1	1	0	0	1	1	0			
		よくなる	7	8	9	10	16	9	12			
		希望がない	3	3	1	1	4	2	2			
		しかたがない	2	2	3	3	5	3	6			
		その他	0	0	1	1	1	1	0			

Table 5 仕事の継続

		施設 人数	公		保		計		S.35	備 註
			n	%	n	%	n	%	%	
設 問 4	イ	いつもやめたいと思 っている	2	2	0	0	2	1	} 15	* 不適 応 群
	ロ	ときどきやめたい と思う	20	22	22	24	42	23		
	ハ	しばらく	35	38	35	39	70	39	} 62	適 応 群
	ニ	いつまでも	21	23	24	27	45	25		
	ホ	なんとなく	1	1	1	1	2	1	} 23	** 中 間 群
	ヘ	事情がよくなれば	8	9	5	6	13	7		
	ト	その他	3	3	3	3	6	3		
チ	無答	2	2	0	0	2	1			

るともいえるであろう。ただし、昭56では「たいへん満足」が減少し「かなり満足」がふえている。両者とも、1%の有意差であった。仕事に生きる心がまえの減少によるものであろうか。

4 仕事の継続

「あなたは幼稚園（保育所）の先生をつづけることについて、どう思っていますか」という設問の結果をまとめると、Table 5 のようになった。

仕事を継続したいと考えているものは、「いつまでも」「しばらく」をあわせると、64%となっている。昭35も62%でさしてかわらない。

しかし、仕事を継続したいとするものを適応群とし「いつも」あるいは「ときどき」やめたいと考えているものを不適応群とすれば、不適応群は昭35で15%、昭56では24%で、両者に5%で有意差がみとめられた。両群の中間的なものは、23%から8%減少した。すなわち、不適応群がふえ、中間群がへっている。なお、不適応群に幼保の差異はない。

5 仕事の満足感

「あなたは幼稚園（保育所）への勤務について、どう感じていますか」とたずねた結果をまとめると、Table 6 のようになった。これによれば、「たいへん楽しい」と「楽しいことが多い」をあわせて、仕事が楽しいとするものは、昭35では80%、昭56では67%と減少した。「たいへん楽しい」は、30%から3%になっている。「たいへん楽しい」「楽しいことが多い」のいずれも、1%の有意差である。

「いやなことが多い」は2%から13%に増加した。幼保をくらべると、このことは保育所にめだつ。5%の有意差である。「とくになんということはない」は、幼稚園に多い傾向がある。

仕事の満足感をめぐるこれらの数字は、幼稚園や保育所の現実、幼児保育者の実態、幼と保の勤務内容につながっている。

Table 6 仕事の満足感

		施設 人数	幼		保		計		S.35 %	備考
			n	%	n	%	n	%		
設 問 5	イ	たいへん楽しい	5	5	1	1	6	3	30	**
	ロ	楽しいことが多い	57	62	49	66	116	64	50	**
	ハ	なんということもない	19	21	14	16	53	18	17	
	ニ	いやなことが多い	9	10	15	17	24	13	2	*
	ホ	いやなことばかり	1	1	0	0	1	1	0	
	ヘ	その他	0	0	1	1	1	1	2	
	ト	無答	1	1	0	0	1	1	0	

6 悩みの対象

「あなたは幼稚園（保育所）の仕事について、どんな悩みをもっていますか。次の中からあてはまるものに○印をしてください。2つ以上あれば、その順位もあげてください」という設問の結果をまとめると、Table 6 のようになる。

これによれば「給料がやすい」という悩みの減少がめだっている。昭35の39%が22%になった。若年のものがふえ、初任給が向上したことによると思われる。「管理者に気をつかう」「同僚に気をつかう」「仕事がきつい」「保育がむずかしい」という悩みはふえている。「保護者に気をつかう」は減少した。これはS.35にくらべてS.56は、公立がふえたことにもよるであろう。

7 小学校との比較

「幼稚園（保育所）と小学校をくらべると、どちらの勤務が楽でしょうか」という設問の結果をまとめると、Table 7 のとおりである。これによれば、「どちらも楽でない」「どちらともいえない」が増加し、「小学校がたいへん楽である」が減少した。いずれも、5%の有意差である。なお、「どち

Table 7 悩みの対象

		施設 人数	幼		保		計		S.35 %	備考
			n	%	n	%	n	%		
設 問 6	イ	給料がやすい	42	25	28	18	70	22	39	**
	ロ	仕事がきつい	18	11	13	9	31	10	3	*
	ハ	管理者に気を使う	16	10	27	18	43	14	3	*
	ニ	同僚に気を使う	11	7	23	15	34	11	3	*
	ホ	保護者に気を使う	20	12	12	8	32	10	18	*
	ヘ	保育がむずかしい	24	15	20	13	44	14	7	*
	ト	しつげに困る	24	15	16	11	40	13	10	
	チ	その他	7	4	10	7	17	5	10	
	リ	無答	4	2	4	8	8	3	0	

Table 8 小学校との比較

			施設		保		計		S.35	備考
			人数		n	%	n	%	n	
選択肢			n	%	n	%	n	%	%	
設 問 8	イ ロ	幼たいへん楽	4	4	0	0	4	2	2	
		小たいへん楽	5	5	6	7	11	6	15	*
	ハ ニ	幼すこし楽	5	5	3	3	8	4	10	
		小すこし楽	10	11	12	13	22	12	4	
	ホ	どちらともいえない	36	39	26	29	62	34	26	*
		どちらも楽でない	30	33**	40	44**	70	39	29	*
	ト	その他	2	2	1	1	3	2	5	
	チ	無答	0	0	2	2	2	1	0	

「どちらも楽でない」について、幼稚園と保育所をくらべると、幼稚園は33%、保育所は44%で、1%の有意差となっている。保育所は勤務時間が不規則であったり、幼児と接する時間がながく、さらにより幼いものも対象にするなどが、その理由としてあげられる。

9 仕事の専門性

「あなたは幼稚園（保育所）での保育について、どう思っていますか」とたずねると、Table 9の結果がえられた。これによれば、昭35と昭56のいずれでも、「子どもをあずかっておればよいので、誰でもできる」とするものは皆無である。「オルガンやピアノがひけ、歌をうたえれば、誰でもできる」とこたえるものも、4%と2%であった。専門職とするものは、81%から、90%に増加した。5%の有意差である。

Table 9 住事の専門性

			施設		保		計		S.35	備考
			人数		n	%	n	%	n	
選択肢			n	%	n	%	n	%	%	
設 問 9	イ ロ	子守的	0	0	0	0	0	0	0	
		オルガンがひければよい	1	1	2	2	3	2	4	
	ハ ニ	専門的	59	86*	84	93*	163	90	81	*
		小学校より下	4	4	1	1	5	3	8	
	ホ へ	その他	7	8	3	3	10	6	6	
		無答	1	1	0	0	1	1	1	

10 保育の計画性

「あなたの幼稚園（保育所）では、毎日の保育が計画的におこなわれていますか」という設問の結果は、Table 10のようになった。「計画的におこなわれている」が減少し、「かなり計画的」が増

Table 10 保育の計画性

		施設 選択肢	施設		人数		幼		保		計		S.35	備考
			n	%	n	%	n	%	%					
設 問 10	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	計画的	24	26*	39	43*	63	35	72	**				
		かなり計画的	38	41*	31	34*	69	38	25	**				
		計画的であったり、なかつたり	23	25	19	21	42	23	2	*				
		あまり計画的でない	3	3	1	1	4	2	0					
		計画はない	1	1	0	0	1	1	0					
	その他	3	3	0	0	3	2	2						

加した。両者をあわせると、昭35は97%、昭56は73%である。「計画的であったり、なかつたり」がふえている。いずれも1%の有意差であった。幼稚園は「かなり計画的」が多く、保育所は「計画的」が多い。

11 保育時の用語

「あなたは保育する場合、共通語を用いますか」の設問の結果は、Table 11 のとおりである。「共通語だけを用いる」が減少し、「共通語を多く」と「どちらでも」が増加した。昭35では「方言だけ」が9%であったが、昭56では皆無となった。

Table 11 保育時の用語

		施設 選択肢	施設		人数		幼		保		計		S.35	備考
			n	%	n	%	n	%	%					
設 問 11	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	共通語だけ	10	11	8	9	18	10	36	**				
		方言だけ	0	0	0	0	0	0	9	*				
		共通語多く	62	67	60	56	112	62	38	**				
		方言多く	2	2	5	6	7	42	0					
		どちらでも	17	19	27	30	44	4	12	**				
	その他	1	1	0	0	1	1	4						

12 保育の自主性

「あなたの幼稚園（保育所）では、各クラスの受持の先生が、自分のクラスを自主的に保育していますか」という設問にたいする結果をまとめると、Table 12 のとおりである。これによれば「自主的」が大巾にふえていることがわかる。すなわち、昭35は40%、昭56は72%であった。これにひきかえて、「主任の指示による」は、9%から1%になっている。それぞれ1%と5%の危険率で有意差があった。助教諭が皆無に近くなったことと、若い保育者の心理的特性の現実が、その理由と思われる。

